

志は心のいのち —サケの生きる力—

杉浦 省三

生物資源管理学科

サケ（鮭）の仲間は、山間の生まれ故郷で最期を迎える。しかし、育つのは遠く離れた大海原だ。毎年秋になると、太平洋から数多くのキングサーモンやコーホサーモンが、産卵のため、生まれた場所に戻ってくる。たとえそこが、学生数4万を超えるワシントン大学の構内であっても……。

1949年、水産学部のドナルドソン教授は、大学の実験場からキングサーモンの稚魚を試験的に放流した。4年後、そのうちの何尾かが、大きく成長して戻ってきたのが始まりだ。慌てて魚道や池を作り、帰ってきたサケが入れるようにした。以来、毎年、人工産卵と放流が継続されてきた。

作業の大半は、大学の授業（実習）として行われ、地元の小学生が毎回その様子を見学するなど、地域の環境教育としても機能してきた。教育面だけでなく、サケの産卵回遊に関する多くの研究成果もあげてきた。しかし、60年余り続いたこの由緒ある事業も、予算不足などの理由で、間もなく幕が下ろされる……歴史の終わりに心が鬱ぐ。

20年近く前、私は学生としてこの授業を受けた。毎週、池に入って網を曳き、親魚の選別と採卵を行なった（図1）。当時はまだドナルドソン教授（通称：ドク、92歳）も健在で、実習にも立ち会っていた。大学から旅立った“か弱い稚魚”が、3～4年後、巨大な姿に変身（成長）して戻ってくる様は、圧巻であり、感動的だ。巨大なキングサーモンを手に、私は、この魚たちに“学生の成長”（教育）を重ね合わせていた。

キングサーモンは、日本のサケよりも一回りも二回りも大きい。しかし面白いことに、同じ親から生まれた魚でも、海に下って大きく成長する者と、川に留まって、あまり成長しない者（通称：ジャック）がいる。キングサーモンなのに、ジャックは30センチ弱にしかならない。なぜジャックと言うか？……多分、キングより小さいから（トランプ）。

サケが過ごす外洋は、外敵が多い一方で、エサとなる生物も多い。海に出た者は、幾多のリスク（試練）と戦いながら、豊富なエサを得てグングン成長する。そして3～4年後には巨大魚へと変身する。一方、慎重者（臆病者？）のジャックは、外敵は少ないがエサも少ない内陸部で、成長よりも、生残のために生きているようだ。

私は、よく学生に海外体験をするよう勧めている。若いときの海外体験が、その後の人生において大きな糧になると確信しているからだ。中東シリアと米国各地……海外生活15年の私は、海外体験の意義を学生に伝える“ある種の使命感”を持っている。残念ながら、このような使命感は、学生にとっては、いい迷惑のようで、話を聞いて質問や相談に来る学生もいない……私のような流れ者にならないよう、用心しているのだろう。

せっかく留学しても、留年したり、就職活動に不利（遅れをとる、十分評価されない）とあっては、“日本引きこもり志向”（内向き）になるのは当然かもしれない。非日本的な考えに染まったり、日本社会の（人生の？）ルールから脱線するのを恐れている。グローバルな時代だが、海外経験ゼロでも（日本では）普通に出世・成功する——学生も保護者も現実主義——だから「留学はやめとけ」ということになる。

そもそも、自ら体験（苦勞）などしなくても、世界中の知識・情報を、本やネットから簡単に得られる時代……それを、アタマの中で要領よく編集するのが賢者の方法だ。所詮、留学など、ハイリスクで“割の合わない選択”なのか？

たしかに、人はローリスクを好む。それは、人の心が“安”を求めるからだ。安は、安定、安全、安心、平安など、心の平穩（やすらぎ）。ローリスク（ノーリスク）は安である。また、安は“安楽”と言うように、ラクでもある。就職難と新卒一括採用のご時世、安の選択は当然の心理だろう。

リスクなき環境：“安の淵”（よどみ）に隠居する若者たち……望み通り、安と楽を手に入れている。しかし、それと引き換えに、大切なものを失ってはいるか？

ハイリスクは試練、自分を鍛えるための修行……その危機感が大切である（とくに、のび太や私のような軟弱・怠惰な輩には必要。ただし、ドラえもんがいたら、何にもならない）。

人は誰でも、何らかの才能（潜在能力）を秘めている……（ドロールレポートの）「Treasure within：秘められた宝」をもっている。この才能を掘り起こす方法の一つが、海外体験である。どこに何が埋もれているか——自分のことなのに——分か

らない。この未知の才能を発掘するために、試練と努力が必要なのだ。

自分を教育するのは、結局のところ、自分自身である。荒海での試練の数々、失敗もすれば挫折もする。しかし、それら全てが自分の経験値、すなわち成長の階段を上がる地力となる。リスク（試練）なき所、このような成長もない——ローリスクの環境は、“墮落の温床”になりかねない。

ハイリスクは真剣勝負、油断や甘えは命とり。その武者修行の旅に唯一必要なもの、それは“志”に他ならない。

「志定まれば、氣盛んなり」(孔子)

「志は気の帥(すい)なり」(孟子)

志は全ての気(本気、勇気、やる気、元気など)の元である。高く強い志をもって、どんな試練をも一所懸命に乗り越える——背水の陣で臨む——ことで、ハイリスクをローリスク・ノーリスクに変え、成長というハイターンを得る。

「志なき者の一生が面白いのは道理」(平清盛?)

「志なき者は、魂なき虫に同じ」(橋本佐内)

高く強い志をもつことが、何より重要である。

ところが、昨今の大学生は、志どころか、「やりたいことがない」という——「志なんて、どこにあるの? あったほうがいいの?」——困ったねえ。若いときの海外体験が重要な理由、それは、志を立てる(見つける)ためでもある。

「志を立ててもって万事の源となす」(吉田松陰)

世界には、いかに多くの生き様(重要な選択肢・別の価値観)があるか……それを知るために、世界を体験するのである。とくに発展途上国など、過酷な環境がよい(むろん国内でも、被災地など惨苦の中で学ぶことは多い)。

たしかに、言葉も文化も常識も違う海外での生活は、不安でいっぱいだ。しかし、これしきの不安から逃げてはならない。(プラトンの)「洞窟」に引きこもって居てはいけぬ。不安とは、未知への入口……それは現状打破、すなわち成長のベクトルなのだ。

一方、欧米などの先進国でしか出来ないような研究・経験も多い。日本と研究環境が異なるためだ。昨年、ノーベル賞を受賞した山中教授をはじめ、多くのノーベル科学者が、海外における研究修行の重要性を指摘している。私ごときの言葉には塵の重みも感じないだろうが、ノーベル科学者の言葉には、千鈞の重みがある。

しかし、そのような一流の研究や研究者に憧れる

ほど、研究にのめり込んでいる学生が見当たらない。米国など海外の大学院に進み、自分の可能性にチャレンジしようという“Uncontrollableな志”が沸き起こらないか? それとも、己の今の生き様に満足・妥協しているのか? ん〜何とも、……残念だ。

最初は誰もが、ひ弱で頼りない子——わずか2センチ、丸顔の可愛い稚魚——それが、勇猛果敢にも大海に出る! 厳しい野生、戦国の世界を、各々の才能で生きる。ある者は、大海原でのハイリスクに呑まれ、命を落とす。ある者は、たくましいキングサーモンに成長する。

しかし、一体、何のために成長するのか? 成長しなければならないのか? そもそも、何のために生きているのか? 生きなければならないのか?

何千kmもの道のり・滝のような急流を遡上し、満身創痍の身で生まれ故郷に帰還するため、そして産卵という決死の任務を遂行するために成長するのだ。産卵期のサケは、物凄い形相をしている。決死の気迫が、その顔にも表れている。しかし、なぜそこまでして、任務を遂行するのか? その気概の元は何か? なぜ、もっとラクに——クラゲのように——生きないのか?

サケの卵は魚類の中でも、際立って大きい。産卵を終え、灰の如く燃え尽きて一生を終えるサケ……成長した自分の体(身)を、全て卵に変えているのだ。子どもたちは、親からもらったその栄養(愛情)を吸収しながら——孵化までの2ヶ月間——“ゆりかご”の中でゆっくりと育つ。決して生き会うことのない親子——生まれながらにして風樹の嘆——孝行すること叶わず、悲しみの深淵に沈む思いだろう。いや、この悲しみが、サケの志を不撓不屈のものにしているのかもしれない。

心を受けると書いて“愛”。親から受けた愛を糧に、大きく成長すること、そしてその心(愛)を次の世代にしっかり伝承すること……それが、サケ流の孝行なのだろう。そこには、世代を超えた“不死の志”が生きている。だから——誰に教えられた訳でもないのに——自分の生まれた場所に帰ってくる、そして、穴を掘って産卵して埋める、などの神業ができるのだ。不死の志が、サケの波乱に満ちた生涯を貫いているに違いない。なんと力強い、サケの生き様よ。

志あるところ道あり・志あるところ我あり——学生よ——大志を抱け。



図1 ワシントン大学のサケ産卵池で親魚の選別をする（1995年当時）

米国で苦労したこと

- 研究面：研究費を取ること（卒業後）
- 勉強面：やはり英語力、膨大な予習復習量（米国ではGPAが重要）
- 生活面：これも英語力（アパート探し、中古車売買、様々な契約、交渉など、自分一人でやると大変）／治安の問題（地域差が大）：暴漢2回、盗難2回、悪い警官2回、詐欺、ゆすり、救急車、交通裁判所など

米国で有益だったこと

- 研究面：24時間、研究に集中できたこと（研究以外のことをせずに済んだこと）／自分で考えながら、自分の好きなように研究ができたこと／有名な研究者と身近に関わることで感化され、高い研究意欲を維持できたこと
- 勉強面：専門分野の知識・技術および英語力（読み書き、正しい発音）が一度に習得できたこと／能動的な学習／成績優秀者への表彰制度など
- 生活面：多くの親切な人に助けられたこと／色々な国の人と知り合えたこと／RA：リサーチアシスタントの収入（大学院の授業料と生活費を払って、少し貯金できる程度）
- 得たもの・学んだこと：多様な価値観・人生観・広い視野（このようなことは自分で体験しないと、何のこと

か分からない。また、これらは自分にとって極めて大切なことだが、他者から評価されることではない）／雑草の強さ／能動性・主体性／独創性／柔軟性／日本人の美点と欠点（醜点）／国際感覚？